

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

“平成30年 仕事始め式”

《新年のご挨拶》

P 2. 会長、常務理事のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P 2～3. 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園

P 3～9. 仙台楽生園ユニットケア施設群
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、ケアハウス創快館、仙台楽生園短期入所事業所、葉山デイサービスセンター、楽園デイサービスセンターいこい・なごみ、葉山訪問看護センター、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 9～10. 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P 10. 仙台保育園

P 10～11. 柏木保育園

P 11. 富沢わかば保育園

P 11～12. 仙台市中山保育所

P 12. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P 12～13. 仙台理容美容専門学校

《平成30年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶》

会 長 菅田 賢治

皆さん、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。今年の年明けは、昨年同様穏やかな年明けでしたが、昨年を思えば九州で豪雨があり、色々な被害が出て自然災害も沢山あったという事で、今年も気を付けなければいけない年だと思っています。

さて、我々の仕事は物を「作る・売る・修理する」といった仕事ではありません。児童・高齢者・教育と分野は違いますが、人と接する仕事という意味では共通しております。

人と接するということは厳しい仕事です。人生の終焉を迎えるにあたっての精一杯のお世話をする、人を育てる保育、教育していく。厳しい仕事をしているという自覚を持たないと人は育たない。成長しないし良い人生を送れない。そういう仕事に携わっているという自覚と誇りを持って今年一年努めて頂きたいと思います。

常務理事 佐々木 薫

新年明けましておめでとうございます。

昨年は様々な制度改正があり大変な一年でした。今年も北朝鮮問題など心配な点がありますが、何より介護保険施設にとっては医療との同時改正の年でもあります。昨年、「介護の現場を守るための署名」活動では、当法人においても高齢者分野だけでなく、児童分野・教育分野の皆さんにもご協力頂き、最終的には全国で約180万以上の署名が集まりました。これらを基に自民党や厚労省に働きかけた結果、0.54%の介護報酬アップではありますが何とかマイナスにならずに済みました。これは、職員の皆さんの署名のお蔭だと感謝しております。

今回の改正の詳細はまだ決定していませんが、厳しい事業所や少しホッとさせる事業所も出てくるのではないかと思います。何れにせよ、国の考えはきちんと仕事をした事業所には支払うといった加算の制度を作っています。我々としては、きちんと加算の取れる施設を目指してやっていかなければいけないと思います。

更には、先ほど会長が人材の話をしました。安倍政権が「人づくり革命」を唱えており、人材確保をきちんとすることが重要だと思います。保育分野に賃上げの話があると同時に、消費税が増税されたらの話になりますが、介護福祉士にも10年以上勤めれば8万円貰えるといった噂があります。これらは国の制度がどうなるかにかかっていることなので、我々としては、目の前のやらなければいけないことをきちんと行っていくことが大切です。それには当然痛みのある改革も必要になってきますので、職員の皆さんにも一緒に協力してやって頂ければ有り難いと思っています。

また、法人としては90周年の年でもあります。今の皆さん、あるいは先人の方々の努力があって迎えられるものです。今後、100年120年と続いていく法人になれるよう、職員の皆さんに益々のお知恵を拝借しながら法人を運営していきたいと考えています。今年がその最初の年になるようにより一層のご協力をお願いして、新年の挨拶とさせていただきます。今年も一年間、宜しく願いいたします。

養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしく願い致します。仙台長生園は、養護老人ホーム・特定施設・長生園介護センターの3枚の看板を掲げ、養護老人ホームと介護保険事業を展開してまいりました。昨年7月、特定施設の外部サービス利用型

から一般型への事業転換に伴い、平成 18 年 7 月 1 日に開所した長生園介護センターは 11 年間の歴史に幕を下ろしました。事業転換により介護・看護職員を増員して体制を強化した特定施設では、要介護・要支援認定を受けている約 80 名の入所者と利用契約を交わし、自施設による介護サービス提供を開始しました。新たに個別機能訓練・医療機関連携・夜間看護体制・看取り介護と 4 つの加算を取得できる体制を整え、介護・医療サービスの質の充実を図っております。一般型への事業転換により介護報酬は月額約 300 万円の増収となり経営も一層安定してまいりました。

養護老人ホームとしては、昨年は特に家族からのDV被害による緊急入所ケースの増加が目立った他、退院後自宅に戻ることが困難な方やアパートからの退去を余儀なくされた方を多く受け入れました。最近では、様々な課題を抱えた方にショートステイをご利用いただき、そのまま長期入所へ移行する傾向が顕著となっています。このような状況の中、行き場のない高齢者の最後のセーフティーネットとして対応できるソーシャルワーク機能の強化に努め、「自立を促し、自主性を尊重し、社会性を伸ばす」長生園の理念を実践する支援を今年も提供してまいります。

養護老人ホーム事業・介護保険事業共にサービスの質を高めるために、職員の施設内研修の充実と外部研修会への積極的な機会を確保するとともに、昨年より開始した人事評価の仕組みを浸透させることで、職員個々のモチベーションを高めスキルアップを図るよう努めてまいりたいと思います。ご指導ご支援の程よろしくお願い致します。

《平成30年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

仙台楽生園ユニットケア施設群は、昨年の12月で12周年を迎え、母体である特別養護老人ホーム仙台楽生園は、昨年の4月で30周年を迎えました。この間ご指導、ご協力をいただきました全ての関係者の皆様に心より感謝を申し上げますと共に、これからも末永くご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当施設群は、都市型の地域密着大規模多機能の理念を実践すべく、介護保険10事業と地域交流プラザを運営し、相互に補完し合いながら安定的な運営を維持してまいりました。しかし、これらの多様な事業を推進していくには、質の高い安定的な職員の確保が必要となりますが、全国的な課題でもある人材不足は深刻です。当法人においても人材育成やキャリアパス制度の確立など、職員の確保を最優先に考えていかなければなりません。

平成27年からの介護報酬の減額改定や、介護職員を確保するための人件費等の増加もあって経営的には大変厳しいものがあり、仙台楽生園ユニットケア施設群の理念でもある地域貢献事業や総合福祉サービスの提供が難しくなっています。しかし、全職員が知恵を出し合い、全事業所が連携して経営効率を高め、サービスの質の向上を図って行くことが肝要です。

昨年は、様々な施策が施行され法人としても施設としてもその対応に追われた一年でした。経営の厳しい葉山デイサービスセンターを楽生園拠点に移行したのもその一環でしたが、様々な要因が重なり難しい対応を迫られたのも事実です。さらに、今年は医療と介護の同時改定がありますので、もうじき出る報酬改定や加算の状況を鑑みながら、その対策にも取り組まなければなりません。これからも公益的な事業として社会から評価されるように、より一層、地域に還元できるよう福祉事業の推進と社会貢献に力を注いでまいりたいと考えています。

《 各事業所 新年の抱負 》

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型（多床室）施設と、平成17年12月に開所した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型（個室）施設の特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設）です。従来型はこの4月に31周年、ユニット型（個室）施設は、昨年12月1日をお祝いし、おかげ様で12周年を迎えることができました。

ここ数年来、本当に“介護職員の確保”に苦悩している現実が長く続いております。また新年度は介護と医療の同時改定が実施される予定です。昨年の暮れには介護報酬改定は0.54%と微増ですが引き上げという情報が入ってきておりますが、今後は更に全国を上げて“介護の世界”を守ることで職員の確保と併せ、利用者へのサービスの質の担保が約束されると思います。

“政治の力”により本当に早く「安心につながる社会保障」を現実のものにして欲しいと願っております。

運営面では、要介護3以上の入所要件が原則あることで、中重度の要介護者を支える施設としての機能を果たしております。介護人材の不足から生じる現場職員への負担増と併せ、介護人材の“教育・育成”が重要な課題であることを改めて強く認識します。

また「地域包括ケアシステム」の構築から地域貢献の役割を模索しながらも更に「理念」を念頭に健全な運営努力を実践し、多職種との連携と併せて職員一人一人が「想造・実行・成長」することにより、より質の高いサービス提供を実践したいと思っております。最後に、安心・安全な“生活の場”として、選ばれる施設づくりを目指して推進してまいります。

仙台楽生園短期入所生活介護事業所

施設長 佐々木 薫

昨年は、仙台市全域における、有料老人ホーム・サービス付高齢者住宅・短期入所生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所等の開所が続いた影響から、以前にも増して非常に厳しい運営を強いられました。

これまで以上に長期入所と短期入所事業の連携を強化し、一体的に利用者確保に向けて取り組む必要がありますが、これだけに留まらず、法人内外の居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等との関係構築に努め、重度化と医療的管理の必要性がある方々への対応や、緊急対応を要するケース、機能訓練等、多様なニーズに積極的に応えていくことも必要と考えます。そのためには、①職員一人一人の介護実践力をなお一層高めること ②生活相談員・介護士・看護師・機能訓練指導員等関連職種の連携が十分に図れること ③ユニットケア施設群内で共通のご利用者を支援する各事業所とも情報共有し密接に連携・協働することが不可欠であるとともに、本来社会福祉法人の役割であるソーシャルワークの担い手である、ということについて職員全体で再確認し、それに応えられる実践力を高められるよう取り組みたいと思っております。

一方このような状況でも、本館・ユニット館共に利用者おひとりおひとりが楽しく元気にお過ごしいただけるよう、余暇活動や外出支援に力を入れて取組んだ他、ユニット館では長期間利用のご家族に向けた近況報告等で個別支援の強化を図り、併設の認知症対応型デイサービスと共同での企画や研修等について開催致しました。今後もユニットケア施設群の機能を活かし、地域の皆様に選ばれる事業所を目指し取組んでまいります。

葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

地域交流事業の年間延利用者数、約 19,200 人の内、喫茶レストラン「茶楽」は約 6,000 人、展望風呂「天空館」は約 4,400 人、理美容室「g g バーバー・美楽る」は約 1,500 人、葉山予防リハビリセンターは約 400 人、葉山の森おもちゃ図書館は約 650 人、地域交流プラザホール利用者は約 3,500 人、ボランティア活動センターは約 1,800 人、実習生の受け入れが約 200 人、その他の地域支援・地域交流事業が約 850 人、オレンジカフェは約 90 名の認知症の人や家族、関係者の皆様に参加をいただいております。

昨年 4 月より体操教室の開催日が縮小された影響を受け、葉山予防リハビリセンターの利用人数には減少が見られました。各サービスをご利用いただいているお客様の定着化は確実に図られている反面、開設から 12 年が経過し固定客の高齢化も否めない現状です。今後は新規利用客の獲得が課題となると考えています。

また、地域支援・地域交流事業については、自主活動グループのメンバー増員や、近隣の高校生との交流イベントを積極的に受け入れたこともあり、増加する結果に繋がりました。

今後も継続的に安心してご利用いただくために、機器や環境面でのメンテナンスを行うとともに、サービスの新たな展開を企画実施し、更なる利用者数の増加と内容の充実に努めて参ります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

H29 年のグループホーム楽庵のスタートは、3 名の入居者を看送ることから始まりました。年々、ホーム内での高齢化と重度化が進んでいることを日々強く実感しておりますが、長年の日々の暮らしを通して「生き抜くこと」をスタッフに自身の身を通して教えてくださいました利用者お一人お一人に深く感謝したいと思います。また、ご家族様からの熱い理解と信頼により、最期まで居たい場所に選んで戴いたことにも深い感謝の念を抱いております。今年も質の高いケアの提供を維持し、選ばれ続ける場所として存在できるよう努めてまいりたいと思います。

運営を進めていく中で、昨年も頭を悩ませたのは、業界全体での課題ともいえる介護人材の確保でした。安定した次世代を担う人材確保の道づくりと共に、「支えるひとづくり」を目標に、信頼と希望を果たす場所として、徹底した質の高いケアを提供できる人材育成の体制の整備を引き続き図ってまいりたいと思います。

運営推進会議等を通じ、関係各所や地域の皆様方から、ホームを通して、温かく施設群全体を見守って頂いていると感じられる事も多くなりました。今年も職員ひとりひとりが楽庵職員としての誇りを持ち専門性を持った先導者として、何らかの活動に貢献・発信ができるように進めてまいりたいと考えています。また、地域へのホームの果たすべき役割を十分に理解し、近い将来を見据えて、各方面からの協力を賜りながら、地域活動の幅を広げてまいりたいと思います。

「ひとの想いをつなぐ場所」として、今年もさらに多方面より多くの信頼を得られるよう、職員一丸となって懸命に尽力してまいります。

葉山地域包括支援センター

所長 佐々木 薫

仙台市では、平成 30 年度より新たな「介護保険事業計画」が始まります。仙台市の基本構想に掲げる「支えあう健やかな共生の都」を実現するために、「高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らす事が出来る社会の実現」をめざし、活動してまいります。

具体的には、①健康で生きがいを感じながら活躍し続けられるために、介護予防・健康づくりに積極的に取り組めるよう推進していきます。②住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るために、高齢者の尊厳保持に向けた虐待防止や成年後見制度などの権利擁護の取り組みを進めます。また医療や介護などをはじめとする様々な専門職や関係機関などの連携を図っていきます。③認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るよう、本人や家族目線での支援の充実に取り組むとともに、地域における認知症に対する理解を広め、認知症や家族を支える体制づくりを進めます。

また最近の相談内容として、ご本人への支援に重ねてご家族への支援（例えば精神疾患を持っていたり障害を持っていたりなど）にも関わる事が多くなっております。行政もちろんのこと他の NPO 団体との連携も重要となっているため、センター内でのカンファレンスなどを充実させながら支援にあたっていきたいと思っております。

ケアハウス創快館

施設長 小船 正明

ケアハウス創快館は、平成17年12月1日に創立12周年を無事に迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。

さて、この29年度を振り返りますと、定員10名の創快館の入居者様の暮らしの中に男性の入居者様が今年も1名加わり、男性2名、女性8名とこれまで以上に賑やかな1年を送ることができました。特に「和（輪）の構築」として実践している“介護予防体操”を継続することで健康面でも全員が元気にお正月を迎えることが出来ました。一方、接遇面においては現在ある課題と向き合い、職員が知識の向上と併せ個別対応出来るよう取り組み、安心・安全な生活環境を構築できるよう取組んで参りたいと思っております。

運営状況においては、創快館の収支については例年厳しい状況が継続しております。特にサ高住や有料老人ホーム等が隣接するなか、これまでより入居希望者も減少しております。今年も同様の課題が予測されますが、現状も含め基本理念である「創一自ら創造する」・「快一共に心地よい」・「館一住まいと生活」を職員が一丸となって提供出来るよう頑張っていきたいと思っております。

葉山訪問看護センター

所長 小船 正明

街に安心の笑顔を送りたい！ ～「こころ」「きずな」「くらし」～を“理念”に掲げ、平成17年12月1日に開所してから、おかげ様で12周年を迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。

また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。この1年を振り返りますと、当事業所は規模も小さく、大きな病院の後ろ盾もないことから今年度も事業運営としては苦戦を致しましたが、職員が笑顔をもって訪問看護の基本である、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく生活を送れるように、医師や関係機関との連携をしっかりと図りながら、サービスを実践して参りました。

今後の「地域包括ケアシステム」の実現に向け、「医療と介護の連携」や「認知症高齢者等の日常的な生活支援」の重要性を認識し医学的な観点、身体のアセスメント、そして生活者としてその人が持っている能力、暮らしを支えていくことが超高齢社会に求められる看護師の大きな役割となります。これからも求められている地域医療への責務を果たしていけるよう取組んでいきたいと思っております。

楽園デイサービスセンターいこい・なごみ

施設長 植木 祐子

昨年は、仙台市全域における有料老人ホーム・サービス付高齢者住宅等の事業所開設の影響から、通所介護等在宅サービス全般において厳しい経営を強いられた1年でした。

そうした中であって、認知症対応型事業所としてケアの専門性向上を目指して、内外の研修に積極的に多数参加し職員間で共有を図ってきた他、「認知症ケア推進委員会」「ケア向上委員会」等新たな委員会も立ち上げ取組んで参りました。また、機能訓練体制の強化を図り「くもん学習療法」を再開した他、これまで継続的に行ってきた「認知症家族交流会」や多職種による自宅アセスメントの機会等、家族支援についても力を入れて取組み、一定の成果が得られています。

また、介護・福祉を担う後継者育成にも事業所全体で取組み、相談援助実習や認知症ケア関連の実習、その他体験学習等についても積極的に受入れ、今後も現場の使命と捉え継続していきたいと考えております。

2年目となった運営推進会議では、委員の皆様より当事業所運営について多くの貴重なご意見を頂戴することができました。その中で、町内の児童公園清掃活動等に利用者の方々にも参加いただき、規模は小さいながらも地域の一員として取組み始めております。

今後も地域に根差した事業所であることをより強く意識し、ユニットケア施設群の機能を活かしつつ、地域住民の方々や関係機関、小中学校等とも連携を深め、地域から信頼され、選ばれる施設を目指してまいります。

葉山ケアプランセンター

所長 榊原 泰子

葉山ケアプランセンターでは、地域で暮らす利用者様・家族様との信頼関係を大切にしながら、これまでの暮らしの継続と、安心感のある在宅生活を送っていただけるよう支援することを理念に掲げ、事業運営してまいりました。

介護保険制度の恒久的運用のためには、制度自体が適正に運用されているかどうか、鍵となります。その介護保険サービスをマネジメントする要である、居宅介護支援事業所の評価は、非常に厳格なものとなっています。ケアプラン作成の一連の流れ・人員体制要件等の基準・関係法令の遵守、プランとサービス内容の適合はどうか・・・特に、利用者の生活の質の向上に資するものかどうかは、重要且つ外すことの出来ない軸と、考えております。

制度上の評価も重要ですが、やはり私たちが実際に関わらせて頂く利用者様の声が、真の評価といえます。冒頭に記しました信頼関係構築のためにも、利用者・家族様の声に耳を傾けることを目的に、毎年継続的に、満足度調査(アンケート)を実施しております。今年度より、ケアマネジャーの接遇面・事業内容に関する評価事項を数値化し、評価の累計・明確化を、試みております。アンケートのみならず、日々皆様から頂戴した貴重なご意見を起点として、今後の事業運営に活かしてまいります。

いつも地域の皆様に気軽に相談いただけるよう、又皆様の身近にあると思って頂けるよう、在宅介護の相談支援機関として、その役割を果たしていきたいと考えます。まずは、介護支援専門員ひとり一人が、利用者様の生きることを支援する仕事だと肝に銘じ、“理念”である『信頼と安心』のもと、事業所全体の質の向上を目指してまいります。

葉山ヘルパーセンター (介護保険部門)

所長 榊原 泰子

葉山ヘルパーセンターは、皆様のお力添えで、開所13年目を迎えることができました。

3年前に、人員管理体制について大きな見直しを行った結果、主軸職員達が主体的に事業運営に参画する事業所へと成長しました。人員の活用や業務効率化、そして法改正も見据えた次なる事業展開への構想と、そのチーム力は、想定した以上の目覚しい伸び幅で、向上しています。

毎日、利用者の途切れることのない生活を支援するためには、訪問するヘルパーの人的成長も求められます。「ヘルパーとは?」「在宅生活を支えるためには?」職員会議や経営会議、研修企画ミーティング等、職員間の情報共有と意思疎通の機会を定期的に設けることで、パート勤務の職員も含め、チーム全体の成熟度が上がってきました。機会ある毎に、ヘルパーセンターの理念を全員で確認しながら、不安や迷いもストレートに伝え合おう、全員で方向性を共有しよう、そして手を携えて前進あるのみ・・・そんな思いを持ったヘルパーが、365日、休むことなくサービス提供しています。

大卒の業務体制に目を転じると、ユニットケア施設群のデイサービスやショートステイ・訪問看護・ケアプランセンターをご利用頂いている皆様からは、すべての事業所が繋がっていて安心感があると、言っています。

いつも身近にいて、何でも気軽に相談できるヘルパーが、デイサービスやショートステイという社会的楽しみの方への“つなぎ役”を担い、その結果、利用者様・ご家族様が笑顔になっていただける。わたしたちヘルパーも「ここで働けて良かった」と実感する瞬間です。

これからの10年を、ヘルパーセンターとしてどのように歩いていくのか・・・?社会的なニーズ・介護保険制度も転換期に差し掛かっています。これまでの在宅サービスで培った経験知を活かしつつ、今後求められるものは何なのか、情報を集約し、新たな制度やコミュニティに於いても、柔軟に対応できる事業体制を構築していきたいと思っております。

葉山ヘルパーセンター (障害支援部門)

所長 榊原 泰子

平成23年12月より、介護保険制度の訪問介護と並行し、障害者総合支援法に基づく、障害児者の方に対するサービスを開始いたしました。現在は、訪問介護事業(居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援)サービスを実施しております。

障害児者サービスの基本には、同性介護の考え方があります。当事業所は、職員21名中2名の男性ヘルパーが在籍しておりますが、男性ヘルパー限定の同性介護ニーズが、たいへん多く、ありがたいことにスケジュールは、ほぼ埋まっている状況です。

また近年は、発達障害を抱える児童の皆様の利用が増えております。特に、小・中学生の放課後の時間をどのように過ごしたらいいのか、ご相談を受ける機会が増えて参りました。児童生徒の皆様お一人おひとりの個性に合わせた柔軟なケアサービスと、保護者の皆様の就業状況にも、併せてお応えするサービスを具体化出来ないものかと、検討を重ねているところです。障害を抱えるお子様の健やかな成長を願うご家族の想いを、ケアという形で実践するためには、更なる専門性が必要です。私ども葉山ヘルパーセンターでは、介護保険事業で培った職員教育のノウハウを活かし、障害福祉関連の研修も並行して計画しております。また、職員の障害サービスに関する資格取得も、積極的に行っております。今後も“事業所の質”と“ヘルパーの質”を高め、在宅ケアの主軸としての役割を、果たしていきたいと考えています。同時に、これからの社会的ニーズ『共生社会』に応えるべく、次なる事業展開の構想を練るタイミングとなりました。

当事業所の職員の殆どは、五年、十年と長きに亘って仕事を共にしてきたメンバーたちです。地域に貢献するための事業継続は、このメンバーを含め、関係する多職種全員で実現していくべきものだと、強く認識しております。地域の皆様の声を直接伺いながら、これまでも、いまも、これからも、皆様と共にあるヘルパーを目指し続けます。“あかちゃんから お年寄りまで

障害のあるひともしないひともし安心してここで生きていこう・・・共に”

葉山デイサービスセンター

所長 榊原 泰子

葉山デイサービスセンターは、昭和62年に開所し、この地で暮らす利用者様・家族様、町内会の皆様、ボランティア・実習生の皆様、ほか数えきれない方々に支えていただき30年。長きに亘り運営継続が出来ましたのも、皆様の温かなお力添えあつてのことと、深く感謝申し上げます。

「ここに来ると、ほっとするね。」「ごはんがおいしい。家でひとりで食べるより、こうして大勢で食べると、もっとおいしいね。」「なんだか笑ってばかりだ、おもしろくて。」介護保険制度が出来る前から、この地で皆様と共に育ってきた葉山デイサービスセンターです。お一人おひとりの声をお聴きしながら、少しでも居心地の良い時間と空間を提供できる様、今年度は『笑顔あふれるデイサービス～個別性を活かす～』をチーム目標に掲げ、様々な取り組みを行って参りました。行事やイベントを企画するのはもちろんですが、“個性”という点では、それぞれの利用者様のご希望、楽しみに思っていること等を細やかに伺い、日々の活動に取り入れられました。ちょっとした瞬間の、利用者様の満面の笑顔に、わたしたち職員も支えられています。

今年度より、事業所管理者を含め人員体制が大きく変更となりました。また、事業拠点を、仙台長生園から仙台楽生園ユニットケア施設群へと移し、訪問系サービスや短期入所施設、長期入所施設まで、介護保険事業10事業所との連携も、動き始めたところです。

いつも地域の皆様の身近にある葉山デイサービスセンターと思って頂けるよう、そして、皆様に、いままでと変わらずに笑顔で過ごしていただける様、努力して参ります。

沖野老人福祉センター

館長 高橋 すい子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

老人福祉センターは市内に8か所設置されております。その中の一つで有る沖野老人福祉センター。仙台市の指定管理者として平成30年度は2年目となります。年間の開館日数は約290日。一日の利用者の平均が約130人、年間合計数が約3万7千人強となっております。なかでも高齢者の教養の向上及びレクレーション等の為の「趣味の教室」は全体の3割強を占めております。また月例となっている健康体操や脳トレも参加者が多く利用者の方の認知症予防や健康体力への関心度が高いことを窺わせます。超高齢化に突入した日本。センターは趣味の活動や教養の向上、生きがい作りや交流の場を提供する施設として役割を果たし健康寿命に役立てる様・今年度も多くの方々にご利用して頂ける様尽力して参ります。

沖野デイサービスセンター

所長 高橋 すい子

平成29年4月から仙台市が要支援者を対象とした総合事業への完全切り替えに伴い当事業所として要支援者の受け皿として総合事業を実施。4月からみなし総合事業に着手し10月1日付で通所介護型サービス指定事業所となりました。介護保険報酬変更の煽りを受け現実の厳しさを前に大変苦勞をしております。上半期の利用者の推移をみますと平均16.8となっております。稼働率が67%で低迷状態にあります。

沖野デイサービスセンターも指定管理者施設で有り市民サービスの低下を招くことのないよう

職員の資質の向上と研修研鑽を重ねながらきめ細やかで丁寧な行き届いた介護サービスに尽力して参る所存です。今後とも皆様方のご協力ご支援方宜しくお願い申し上げます。

沖野居宅介護支援センター

所 長 高橋 すい子

現在ケアマネ2人体制で業務に取り組んでおります。特定事業所加算を取得することを目標としており顧客数を増やすため努力しております。昨年の10月の同時期と比較しますと1.28倍に伸びており順調に推移しております。順調に伸びてきておりますので地域包括支援センターや地域の関連機関との関係を強化しながら目標達成の為取り組んで参る所存です。今年もどうぞご支援とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

仙台保育園

園長 高野 誠

明けましておめでとうございます。仙台保育園は、おととしの4月に定員を増員し、新園舎に移転して今年は3年目を迎えます。石の上にも3年ということわざがありますが、子ども達は日々成長していますので、忍耐強く頑張っていれば報われるという事ではありません。2017年3月に告示された「保育所保育指針」が、今年の4月からは施行されます。子ども・子育てをめぐる環境の変化は石の上にも3年なんて言っていられない程、目まぐるしく変化し、その対応に追われる保育所（園）職員は、常に学び合いながら向上をしていかなければなりません。どのように意識づけ、同じ方向を向かせ、自分が持つクラスや職務だけでなく組織という観点から保育園や保育を考えられるようにしていける職員集団を作るためにも、何が必要なのかをしっかりと考えて行かねばならないと思います。外部へ出る研修ももちろん大事ですが、足元である園内で子ども・保護者・地域と保育者がつながりながら学び合う事を最優先に考えていければと思っています。

仙台保育園は、休日保育や病児・病後児保育を行っているからこそ、お互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にする保育が必要なのです。

そういった意味からも、今年も保育園に関わる全ての人々に感じてもらえるように頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

柏木保育園

園長 島田 玉江

新年あけましておめでとうございます

昨年自然災害、特に水害が多く発生し甚大な被害を受けた場所もあり日常生活に大変な支障をきたし私たち人間は自然の力の前には無力であると思われ知らされた一年でした。また、夏らしい天気が続かず秋の長雨の影響で年末にかけて野菜が高騰しキャベツ一個が500円には目が飛び出しそうですね。しかし柏木農園ではじゃがいも、さつまいも、大根、白菜が思いがけなく豊作に恵まれ子どもたちの昼の献立にひと役荷なっており助かっています。

今年の干支の戌年は水害の多い年になるそうですので、その年の気候に合わせて柔軟に対応できるような日々怠ることなく取り組んでまいりたいと思います。海辺の方の甚大な震災の影響はまだまだ復興には程遠く日常の喧騒に忘れ去られようとしておりますが、東北に住んでいる我々としては復興にも心を寄せて行かなければと思っています。また、宮城県は不登校の子供たちが一番多い県だそうです。震災の影響も大いに受けていると思いますが子どもたちが格差や貧困で心に影を落とすことのない世の中になるように、大人達が心を砕き手を差し伸べ未来

ある子ども達を大切に育てて行かなければと思っています。

柏木保育園の子どもたちは元気が一番です。昨年はインフルエンザやノロウイルスに罹るお子さんが一人もおらず、安心して年の瀬を迎えることができました。これも一重に保護者の方々や職員の日頃からの頑張りのお陰かと思えます。本当にありがとうございました。新年に入り少し熱の高めなお子さんが数名おりますが元気な笑い声が響いております。

今年は、子ども達を見守る大人側も元気をもらえるような取り組みを考えて行けたらと思います。これからも温かく人間味溢れる柏木保育園であり続けられるように職員一同頑張っ参りますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

富沢わかば保育園

園長 庄子 美智子

年末は思いがけない雪と風に見舞われましたが、お正月は穏やかでしたね。年が明け、久々に子ども達のにぎやかな話し声が聞こえて、静かだった保育園に活気が戻ってきました。

昨年は、北朝鮮のミサイルの早朝メールや大国との一触発しかねないやり取り等に惑わされ、それは今後も続くと思われます。また、子どもを取り巻く現状は依然として厳しく格差や貧困、毎日のように繰り返される虐待等には成す術がないような感じさえ受けます。未曾有の災害も多く発生し、水害や台風、大きな地震等には、油断することなく備えをしていかなければと思われます。

児童福祉施設である保育園は未来を担う子ども達が人格を形成していく場所です。子ども達はいつの時代も大人との豊かな愛情を基本に、人と関わり合いながら自分を存分に発揮して子ども時代を生き生きと過ごす権利のある存在です。その権利を保護者と共にしっかり守り、豊かな乳幼児期を作っていかなければと思われます。

富沢の地域に保育園を開園し今年で27年目となります。当たり前の事ですが、富沢の地域も開園当初とは大きく変わり、田んぼや畑がどんどん宅地化され、オタマジャクシやイナゴ取りの出来る地域でなくなってきたことに寂しさを感じます。それも時代の変化と受け止め、近隣にたくさん増えた保育所との交流等も必要なことかと思われます。待機が多い地域であることに甘んじることなく、職員のチームワーク良く、保育内容や食育活動に向上心を持って職務に当たっていきます。

新しい年を迎え、新たな気持ちで気持ちを引き締め保育に当たりたいと思われます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

仙台市中山保育所

所長 櫻間 美智子

皆様、お正月いかがお過ごしでしたでしょうか？今年は何日から晴天に恵まれ又、2日のスーパームーンもとても美しく“きっと良い年になりそうな!!”そんな予感が是非的中して欲しいものです。

さて、6日間の休みを経て所内には子ども達の笑い声、温もり、匂いが満ち溢れ、いつに増してパワーが高まっているようです。春のゴールデンウィーク、お盆の前後等連続したお休みが、年間何度かあるのですが、不思議にお正月明けの子ども達はよりパワーアップしているように思われます。やはり年の始めという事で何か違うものがあるのでしょうか？そしてそんなパワーに囲まれ1年のスタートを切れる私たち保育士は仕事冥利の一言に尽きるというものです。本当にありがたいことです。

平成という時代も秒読みに入る今年、保育業界は依然として待機児童解消、保育士不足、保育士待遇改善、保育の質の向上などなど課題と見直しが山積みです。又、保育の基本である保

育指針も改訂となりますが、内容的には従来のを踏襲しており、大きな変化はないものとなっています。一部表記が変わったりはあるものの、過去何回かの改訂でも根本は変わらず、このことは「人を育てる（慈しみ育てる、教育する。）」

という事は時代や社会情勢に左右されるものではないという事を物語っていることにほかなりません。このことを改めて心して参ります。

翻って大きく世界を見渡せばミサイルの脅威、核の脅威に始まり不安材料も限りなく、夢も希望も吹き飛んでしまいそうな昨年でしたが、お蔭様で大過なく1年を終えることができた中山保育所です。子どもたちを中心に保護者の皆様、地域の方々と手を携え、より良き未来を信じ、子ども達に負けないよう歩んでいきたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

仙台むつみ荘

施設長 長田 伸一

新年、明けましておめでとうございます。

清々しく、身の引き締まる思いで抱負を述べさせていただきます。むつみ荘は昨年多くの利用者世帯の入れ替わりがありました。そんな中でも皆、大きな怪我や事故も無く健康で無事に一年を終了する事ができました。これも、職員全員の努力と関係者の皆様のご協力あつての結果であると感謝に堪えません。さて、むつみ荘にはまだ経験が少なく、未熟な職員が多数おります。しかしそれは可能性の大きさと捉え、ベテラン職員を中心に職員育成や施設の運営方針、処遇サービスの基本を随時確認して行きたいと思ひます。又、昨年に引き続き次の6点をむつみ荘の目標に掲げたいと思ひます。 1 母子生活支援施設業務の専門分野をもっともって理解する事。 2 職種や職員間のコミュニケーションを更に円滑にする事。 3 各担当職員の枠（守備範囲）を超えて、互いにカバーする実力を養い、チームとしての支援を確立して行く事。 4 施設内でしか通用しない生活態度や行為等を分析、軌道修正し、自立に繋げる事。 5 支援を計画し実施する場合、中長期的な視野に立ち、点から線そして面に広がる様な支援を心掛ける事。 6 確固たる目標と責任感を持って利用者第一で日常業務に臨む事。 この6つを基本方針として挙げ、母子生活支援施設のメリットと特色を最大限発揮できる施設の環境を整備する事を、私の最終的な目標とします。法人全体では、職員全員が事業所毎に独立採算性が基本である事を強く認識する事が重要です。法人経営者は各職員からの意見を真摯に聞き、経営責任と説明責任を持って各課題を早急に打開していく事が法人としての直近の最重点課題だと思ひます。80年を超える歴史のある仙台市社会事業協会を、誇れる法人のまま後進に受け継いで行く事が我々の責務であると思ひております。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、全国11地区から219校3000名を超える選手が参加した「第9回全国理容美容学校学生技術大会（理美容甲子園）」において、まず、7月に青森県で開催された東北地区大会で本校学生28名が参加、そのうち14名が各部門で優秀賞を獲得し、東北地区代表として全国大会出場を果たしました。そして、11月に東京体育館で開催された全国大会では、お蔭様で昨年に引き続き理容部門「ワインディング競技」で銅賞（第3位）と優秀賞（第4位）、「ミディアム競技」で優秀賞（第5位）と3名が全国で上位入賞をすることができました。今年は、東北地区予選大会が7月に山形県で、全国大会が11月に岡山県で開催される予定ですが、昨年同様良い成績が残せるよう全力で挑んでいきたいと思ひます。

また、平成 28 年に完成したサロン実習棟の活用も間もなく 2 年が経過しますが、就職した先のサロン様からは「今年の学生は動きが非常に良い」と好評価をいただき、その効果が表れたことに対し、改めて実践に近いトレーニングの大切さを感じました。3 年目を迎える今年は、さらに実習内容を充実させ、即戦力となる人材を育成していきたいと思います。

今年、理容師・美容師養成制度が 2 年制度に変わってから 20 年目を迎える節目の年になりますが、教科カリキュラムについても見直しを図られ、平成 30 年度入学生から教科科目や履修時間数が変わります。本校としても法改正に伴い学生にとってよりプラスになるカリキュラムの編成を行っていく予定ですが、今後の学校運営・教育にも大きく関わる場所ですので、これまでの良きものをさらに高めつつ、新しい時代の変化にどう対応していくか、そして、リードしていける学校としてさらに成長していけるかを模索しながら、今年も充実した 1 年にしていきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願い致します。